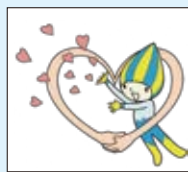


ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します！



清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部県民生活課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市数田南 2-1-1 (県庁 6 階)
電話 058-272-8199

第26号
令和2年12月発行

33 雄飛地区まちづくり委員会 (各務原市)

活動地域：各務原市那加雄飛地区(雄飛ヶ丘、昭南、入会、不動丘) 活動拠点：雄飛ヶ丘地区公民館 委員長：増田 義彦

地区の概要

雄飛地区は、各務原市の西方に位置し、昭和11年頃より、旧川崎航空機工業株式会社(現川崎重工業株式会社)の社宅として神戸本社の造船部門から従業員が異動してきたことから形成された。現在は、17自治会で連合会が組織されている。

【地区のデータ】 世帯数:1,305世帯 人口:3,253人 地区の高齢化率:32.4% (令和2年4月1日現在)

会の概要

設立：平成30年3月

組織：連合会役員経験者を中心に住民ボランティアで組織され、「自分たちの手で、住みよいまちにしていこう」を理念に活動を展開している。「自治会再編部門」「公民館建替え部門」「地域活性化部門」「安心・安全部門」「高齢者対策部門」の5部門で構成されている。

経緯：少子高齢化による自治会世帯数の減少を懸念して、平成28年に設立された「雄飛ヶ丘自治会連合会再編検討委員会」を母体とし、広く中・長期の課題に連合会と協働して取り組むため、平成30年に「雄飛地区まちづくり委員会」に名称変更し活動している。

主な取り組み

● さつまいもプロジェクト

- 三世代がともに生き活きと共存できるまちづくりを目指し、苗植えから収穫までを、地域の子供からお年寄りまで一緒になって共同作業を行っている。
- 自治会連合会の自主防災講習会と合同でさつまいもの収穫祭を開催している。
- さつまいも掘りのほか、子供たちがきんとんを作りお年寄りと一緒に食べている。
- プロジェクトの協賛店に、収穫したさつまいもで作ったスイートポテトを差し入れてもらうなど地区を巻き込んだ活動となっている。
- 自主防災講習会では、消防署による防災講話やAEDの実演と体験のほか、災害により避難所生活となった際に役立つ、ダンボールを使ったお膳やお盆作り体験、芋雑炊、味噌汁等の炊出し(今年はハイゼックス炊飯)など楽しみながら学べる企画を行っている。

【新型コロナウイルス感染症拡大防止対策】

- キャンプ用テントを持参してもらい、ソーシャルディスタンスを保った。
- 密を防ぐため、グループカードを作り少人数で順番にさつまいも掘りを行った。

● 買物弱者対策プロジェクト

買物弱者のため、毎月第2日曜日に雄飛ヶ丘公園でマルシェを開催し、野菜を中心に、お弁当や焼き芋などを審査に合格した地元の出店者に販売してもらっている。これは、自ら商品を選び、家族のため良い物を自分の目で確かめて買物を楽しみたいといった高齢者の意見を反映したものである。



さつまいも掘り



収穫祭



AED講習



マルシェ

※一部の写真は、昨年のものです

●夏祭りプロジェクト

地域活性化の相乗効果を図るため、毎年8月24日（今後は継続のため曜日固定）に、薬師寺の地藏盆に合わせ、夏祭りを開催し、盆踊りやバザーを行なっている。事前購入のチケットと食べ物や飲み物が交換でき遊戯もできるため、雄飛地区内外から老若男女が参加している。



夏祭りチラシ

●各務原市探検隊

小学生を対象に、夏休みに市内にある施設を巡るイベントを開催。

- 1 自分たちが住んでいる町を知ること
- 2 高学年が低学年の世話係となり絆を深めること
- 3 家族の付き添いをなくし、子どもたちの世話に追われる保護者に夏休みをとってもらふこと

の3つを目的としている。探検の様子をライン登録をしている保護者にライブ配信したり、探検の活動記録として、参加カードを発行し、毎年参加してもらえるようにするなど工夫をして開催している。



各務原探検隊



探検隊参加カード

●鬼の巡行

厄除け祈願行事を薬師寺とまちづくり委員会が一緒になって行っている。

毎年2月、鬼の面を被り、鬼の装束を着て、寺の住職を先頭に銅鑼を鳴らしながら「鬼参ります」の発声で「鬼は外・福は内」と豆を巻き、地区を練り歩く。

また、地元のショッピングセンターの店内を練り歩くなど地域交流にもなっている。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、フェイスシールドに鬼のペインティングをしたり、子どもたち全員が鬼のお面を被るなどの工夫をして行うことを計画している。



鬼の巡行

課題と今後の展望

- 立地条件が良いにも関わらず、各自治会の高齢化率に差があり、自治会が機能しなくなることを危惧している。面白そうだな雄飛地区!元気だな雄飛地区!と思ってもらい、若い世代に移り住んでもらえるまちにしたい。
- 委員会発足のきっかけにもなった、子どもが少なく子供会が成り立たない状況に、まちづくり委員会が子供会活動の担い手にもなり、地元こんな行事があったなと、大人になって振り返ることができるものを子供たちの記憶に残したいという思いで活動をしていきたい。
- まちづくり委員会は、連合会と地域の課題に取り組む共同体であると同時に、連合会を支援する組織でもある。地域の人に積極的に行事に参加してもらい、つながりを深め、盛り上がっていかねばと願っている。

目指す将来像

- (1) 安心・安全が保たれているまち
- (2) 3世代が生き活きと共存しているまち
- (3) 世代間・区内コミュニケーションが十分にとれているまち
- (4) 個々の多様性を認め合い、支え合うまち

取材を終えて

雄飛地区でも今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、年度前半は夏祭り、各務原探検隊などの行事の中止を余儀なくされましたが、後半は対策を十分に踏まえ、工夫をして行事を計画されていました。感染対策グッズを逆手に取るなど、どの催しもアイデア満載で、楽しみながら活動をされているのが印象的でした。関係者の皆様にはお忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

地域の課題解決応援事業をご活用ください!

自治会・まちづくり協議会など地域住民主体の団体を対象に、防災、防犯、福祉、まちづくり活動など、身近な地域の問題や課題の解決につながるヒントを提供する専門家をアドバイザーとして派遣したり、地域住民の間で課題を洗い出し共有するワークショップを行う場合のファシリテーターを派遣するなど、要望に応じて課題解決の応援をします。

例えば…

- 高齢者に地域で生き生きと活躍してもらうための講座を開きたい!
- 地域で防災について学びたい!
- まちづくり活動を活発にしていきたい!

講師の派遣費用は
県が負担します!

詳しくは、ホームページ検索サイトで

地域の課題解決応援事業

検索

